

宮古島の祖神祭に迫る 故上井さん写真集発刊

1970年代を中心に関古島の秘祭や人々の暮らしを写した故上井幸子さんの写真集「太古の系譜 沖縄宮古島の祭祀」(六花出版)がこのほど発刊された。大神島と宮古島の島尻・狩俣の両集落で、女性だけで執り行われる祖神祭(ウヤガン、ウヤーン)をとらえた貴重な作品など約200点が収録されている。

上井さんは2011年に77歳で死去。遺品の整理をしていた親族から、上井さんと宮古島で行動を共にしていた女性研究者のもろさわようこさんがフィルムを託された。上井さんの作品をよく知る写真家の比嘉豊光さんが数年越しで整理。もちろんさんが上井さんとの思い出などを巻末につづった。

比嘉さんは「(写っている)

オバーたちが心を許している。ここまで中に入り込んでいたことにまず驚いた。女性の視点の強さを証明する写真がいくつもある」と評価。六花出版の山本有紀さんは「出版人生の中でも一番手応えがある写真集。だれにでもお薦めできる」と一覧を呼び掛けた。

今年秋から来年にかけて、本島内と宮古島市で写真展やトークイベントなどを開催する。祖神祭は島尻と狩俣で既に途絶えている祭事。当時でも立ち入ることが許されなかつた場面も多く、されなかつた場面も多く、比嘉さんたちは「上井さんの作品を地元に返したい」と話している。

「太古の系譜」は県内の書店に25日から並ぶ予定。2700円。



故上井幸子さんの写真集「太古の系譜」の発刊を喜ぶ(左から)
六花出版の山本さんと比嘉さん=那覇市・沖縄タイムス社